

小林の秋の味覚「須木栗」を求めて すきむらんどで栗まつり開催

9月27日と28日、すきむらんどで栗まつりが開催されました。昼夜の寒暖差が大きい須木の山あいであつた「須木栗」は、大粒で甘みが強く、県を代表するブランド和栗の一つ。会場には市内外から大勢の買い物客が来場し、生栗や焼き栗、栗を使ったスイーツ、地元特産品など、小林の秋の味覚を求めて行列を作りました。



鹿児島市から来場した池田美咲さんは「大粒の栗にびっくり。栗のジェラートがとても美味しく、行列に並んだかいがありました」と笑顔で話しました

陰陽石まつりで住民ら交流を深める

9月23日、こばやし陰陽石まつりが陰陽石公園で開催されました。神事に続き、地元住民らが歌や踊りなどを披露するステージイベントなどが催され、約850人が来場。伝統芸能「東方輪太鼓踊り」を東方中学校生徒が見事踊り上げ、会場を盛り上げました。



チームオレンジが見守り声かけ訓練

10月4日、橋谷地区で地域住民を対象に認知症の人やその家族を地域で支援する橋谷地区公民館茶話会チームオレンジが見守り声かけ訓練を行いました。参加者は、声かけの仕方の寸劇を通して、認知症の人への対応の仕方について理解を深めました。



体育館の暑さ対策に役立てて 文化シャッターが遮熱シートを寄付

9月25日、各種シャッターや住宅建材などを取り扱う総合建材メーカーの文化シャッター株式会社（小倉博之代表取締役社長）が企業版ふるさと納税として遮熱シートを寄付しました。寄付されたのは同社で取り扱う屋内遮熱用シート「はるクール」で、小林中学校の体育館に設置。室内の温度上昇を抑制する効果が期待されます。



贈呈式に出席した高橋保行九州支店長は「学校の体育館などは緊急時の避難所にもなる。過ごしやすい環境づくりに少しでも役立てば」と話しました

戦後80年 平和への思いを新たに 戦没者追悼式を文化会館で開催

10月3日、戦没者追悼式が文化会館で行われました。遺族など約300人が参列。緑ヶ丘公園の忠霊塔にまつられている戦没者約1600人をしのび、平和を祈りました。遺族を代表して遺族協会の橋満進会長が「終戦80年の節目の年。戦後の苦しみや悲しみを次世代へ語り継ぐことが私たちに課せられた義務である」と思いを語りました。



「平和への思い」をテーマに募集した作文の最優秀賞、野尻小6年の池上和愛さん（右上）と東方中2年の下り藤詩乃さん（右下）の作文朗読も行われました

小林中学生と西小林中学生が 全国陸上競技大会で上位を目指す

9月17日、新倉佐彩さん（小林中3年）と川添央嘉さん（西小林中3年）が第21回ジュニアオリンピックカップU16宮崎県陸上競技大会で優勝し、10月17日～19日に三重県で行われる全国大会に出場することを報告しました。新倉さんは100メートルハードル、川添さんは円盤投げに出場し、県の代表として中学最後の大会に挑みます。



新倉さんは「自己ベストを更新して上位入賞を目指したい」川添さんは「日々の練習を頑張って決勝に行きたい」と全国大会への意気込みを話しました

アサギマダラの飛来を願って 三松小児童がフジバカマを植栽

9月25日、チームみまつ協働体が主催する「アサギマダラを呼ぼうプロジェクト」が三松小学校で実施されました。これは地域の人とつながり、地域を活性化させることを目的とするもの。参加した児童は、飛来してくるアサギマダラを思い描きながら、アサギマダラが好む多年草のフジバカマ約60本を一生懸命植栽していました。



ひばりの籠野あかりさん（6年）は「手入れを欠かさず行い、きれいな花を咲かせたい。アサギマダラが来てくれるとうれしいです」と笑顔で話しました

市内最高齢となる107歳 安藤フツノさんの長寿をお祝い

9月16日、敬老の日にあわせて市長が市内最高齢者である安藤フツノさんを訪問しました。安藤さんは大正7年2月9日生まれの107歳で、現在は市養護老人ホーム慈敬園で生活。入居者やスタッフが見守る中、市長が賞状と花束（西諸県地区花き振興会提供）を手渡すと、安藤さんは「ありがとうございます」と感謝を述べました。



10月20日現在、市内の100歳以上の高齢者は女性68人、男性5人の計73人いらっしゃいます

南小児童ラジオの公開収録にドキドキ

9月19日、市PR大使の大野勇太さんがパーソナリティを務める、MRTラジオ「んだモシタン西諸Radio」の公開収録に南小の6年生7人が参加しました。児童らは学校や市の魅力、ななつ星in九州のおもてなしの思い出などについて緊張しながら話しました。



脳とこころの健康市民フォーラム開催

9月21日、文化会館でにしもろ脳とこころの健康市民フォーラムが行われました。くすもと内科クリニックの楠元規生院長や宮崎大学医学部精神医学分野教授の平野羊嗣先生が講話し、参加者は認知機能を維持させるための生活習慣と睡眠について学びました。



湧水を身近に感じて楽しむ 出の山名水まつり NAORAI 開催

10月12日、第5回出の山名水まつり NAORAI（小林まちづくり株式会社主催）が開かれました。当日は、ステージイベントや屋台ブースなどで会場が盛り上がる中、出の山飲食業組合加盟店による鯉定食の半額企画も実施。チョウザメ解体ショーやキャビアのふるまいが行われるなど、来場客は名水を活用したグルメなどを楽しみました。



同社の木村洋文統括部長は「市が誇る観光スポットである、出の山でさまざまな催しを企画した。家族みんなで楽しんでほしい」と話していました

のじりこぴあに有名餃子店が大集結

10月11日から13日にかけて、「餃子フェス in のじりこぴあ」が初開催されました。フェスには、県内の有名餃子店をはじめとする約15店舗が出店。会場は多くの家族連れでにぎわい、来場者は各店舗が趣向を凝らした餃子の食べ比べを楽しんでいました。



児童クラブらを対象に火災避難訓練

10月14日、小林市農村環境改善センターで中央消防職員を講師に招き、児童クラブと加工指導員を対象に初めて火災避難訓練が行われました。参加した児童らは、避難誘導訓練や消火訓練などの指導を受け、火災避難時の対応について理解を深めました。



県マーチングコンテストで金賞 野尻中吹奏楽部が九州大会へ

10月9日、野尻中学校吹奏楽部が福岡県で開催される第43回九州マーチングコンテスト（中学生の部）に出場することを市長に報告しました。同部はマーチングをはじめてわずか3年目のチームでありながら、9月に本市で開催された第43回県マーチングコンテストで金賞を獲得し、見事九州大会への出場権を獲得しました。



3年生の西畑優月部長は「いつも支えてくれている人たちに感謝を伝えられるような、自分たちらしいマーチングを見せたい」と意気込みました

アニメ制作会社が野尻中で授業 生徒がアニメ制作の理解を深める

10月9日、市と地域活性化包括連携協定を結ぶ株式会社 RICE FIELD（田原麻美代表）が野尻中学校1年生にアニメの制作工程などについて授業しました。在宅可能なアニメ制作を活用した地域活性化に携わる人材の育成を目指す企業。生徒は実際にパラパラ漫画を作って、直接指導を受けるなどアニメ制作について理解を深めていました。



上田孔権さんは「実際にアニメを作っている人からアニメの作り方を詳しく聞けて楽しかった。就職の幅が広がったので良い機会になった」と話しました

「自分の意思で未来を選んで」 元バレー選手の木村さんが講演

10月4日、元バレーボール女子日本代表の木村沙織さんの講演会が文化会館で開催されました。講演会は市内3高校の生徒43人が主体となり活動する「絆を結ぶ物語高校生実行委員会」が企画・運営。来場者約800人は、「未来は自分でつくる」を題目として自らの競技人生を振り返りながら話す、木村さんの講話に耳を傾けました。



木村さんは「失敗は上達への大切なきっかけ。トップ選手でも必ずミスはするので失敗を恐れずにさまざまなことに挑戦して」と高校生にエールを送りました

ハーブやスパイスを使ったグルメを満喫

10月5日、野尻地区の薬草・地域作物センターで「のじりハーブ&スパイスマルシェ」が開催されました。これはハーブを身近に感じてもらいたいと例年開催されているもので、来場者はハーブやスパイスを使ったグルメやハーブ園の見学などを楽しみました。



電気設備をボランティアで点検

10月9日、小林地区電気工事業組合野尻支部（西篤志支部長）のボランティア活動が行われました。これは同組合が地域貢献活動の一環として例年実施しているもので、当日は同支部の4事業所が市内にある安全灯の電球交換などを行いました。



コスモスと灯籠が秋を感じさせる 生駒高原でナイトコスモス開催

9月27日～10月26日にかけて、生駒高原で生駒高原コスモスまつりが開催されました。約100万本の色とりどりのコスモスが咲く絶景を見ようと多くの人が来場。10月4日にはナイトコスモスが開催され、ライトアップされたコスモスと灯籠が彩る中、2000発の音楽花火も打ち上がるなど会場は大いににぎわいました。



まつり中は、みやざきグルメリッシュやINTIライブ、大道芸パフォーマンス、パンマルシェ、スイフル♡マルシェなどのイベントも行われました

三松中生徒が非認知能力を育む 第2回キャリアの日を実施

10月7日、三松中学校で株式会社 ミジンコ（友村晋代表）や宮崎トヨタなどを講師に迎え、第2回キャリアの日が行われました。これは、地域や企業などと連携し、生徒が多様な経験を通じて非認知能力を育む全国でも注目の教育モデル。生徒はAI時代に必要な3つのスキルなど、将来の成功につながる力について学習し、理解を深めていました。



友村代表は「無知の無知が1番怖く、まずは知ること、そこから何を不得何をしようと思うのか。自分の人生を自分で作っていく」と生徒に講話しました